

令和6年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・イネカメムシ（No. 1）

令和6年5月24日

鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

令和5年度、県西部の水稻において、イネカメムシの吸汁による不稔症状（穂の直立）及び斑点米被害を確認しました。本種の発生地点は増加傾向にあり、東部及び中部においても発生を確認しています。本種による被害が確認された地域では、出穂期の防除を計画的に実施しましょう。また、県西部の越冬場所調査により越冬虫を確認しています。今年度も発生量が多くなることが予想されますので、今後の発生動向には注意してください。

2 発生状況

- （1）鳥取県では、令和3年の巡回調査定点におけるすくい取り調査において、県西部のほ場（1地点2ほ場）で発生を確認した。
- （2）令和5年度は、県西部の広範囲及び東部や中部の一部地域においても発生を確認しており、発生地点が増加している。なお、南部町では多発ほ場も認められ、本種によるものと考えられる不稔症状も確認した。
- （3）昨年、県西部の被害が認められた地域において越冬調査を行ったところ、水田畦畔の法面において越冬成虫が確認された（12月上旬に、南部町内3集落において、水田畦畔等で雑草かき分け調査を実施、2か所の畦畔で計5頭の越冬成虫を確認）。
- （4）本年5月15日に、越冬虫を確認した地点において継続調査を行ったところ、1頭の成虫を確認し、越冬場所に潜んでいることを確認した。

3 防除上注意すべき事項

- （1）斑点米カメムシ類を対象とした粉剤もしくは水和剤による薬剤防除を計画する。本種の発生量が多いほ場では、出穂始め（出穂期の約2日前）～出穂期、穂揃い期～乳熟初期（出穂期とその7～10日後）の2回防除を行う。その後も発生が多い場合は追加防除を検討する。
- （2）本種はイネへの嗜好性が高い。早生～晩生品種が混在する地域では、本種にとって増殖に好適な餌条件が続き、発生量が増加しやすい条件になると考えられる。
- （3）周辺より出穂が極端に早い、又は遅いほ場では、本種の飛来が集中する可能性がある。このような条件のほ場では注意深く観察する。
- （4）イネカメムシは、他の斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシなど）と異なり、イネ科雑草地に生息する個体は少ないため、雑草管理では密度を低減できない。